

平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

・「学校に行くのが楽しい」という子を増やす

・あいさつができる子を増やす

・家庭学習の定着

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		2.6	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが主体的に学習する授業」を展開するために授業研究、教材研究を充実させる。 ・5校時前に15分の学習タイムを設置し学力向上のための漢字、計算のドリル学習を進める。 ・児童の実態を把握し、正しい学習規律を身につけさせる。 ・読書力向上について図書室の整備、図書ボランティアとの連携を図る。 ・コーディネーターを中心に校内委員会で要支援児童を共通理解し、個に応じた指導を展開する。 ・家庭学習ノート「ホーム ラーニング」を児童・保護者にねばり強く指導し定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律は定着してきた。子どもが主体的に学習し、「授業が楽しい」と思える授業の工夫が必要である。 ・多忙であり教師が授業研究、教材研究をじっくり行える余裕が少ない。 ・学習タイムでは漢字検定を行い満点を取った児童の名前を掲示した。それにより児童のモチベーションがあがってきている。 ・読書力向上のために一度に借りれる本の貸出冊数を増やす等の改善を図る。 ・親子で取り組むことができる家庭学習等を考え家庭学習の習慣を定着させたい。 ・要支援児童の課題と支援方法を明確にして職員全体で共通理解を図る。 		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		2.6	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・温かい雰囲気の中級経営をこころがけ学級が児童にとって安心できる場にする。兵庫版副読本を活用した授業、友だちの良いところ見つけ、親への感謝の手紙等の取り組み。 ・教師が意識して多くの児童の名前を覚え一人一人を認め尊重する。あいさつ時に名前を呼ぶ等の実践を図る。 ・あいさつの徹底。「朝のおはようございます」「授業開始の願いします」「ありがとうございます」等の日々の指導の積み重ねを大切にしている。 ・朝のあいさつ当番を登校班ごとに行う。それによって全児童があいさつ運動に参加することになりあいさつに対する意識の向上につながる。 ・子ども達に「くつをそろえる」ことの意義を理解させ徹底させる。 ・様々な教育活動を通して将来の夢や職業などについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級の状況は巡回、参観、先生方との意見交流で常に把握できている。 ・授業の始まりを意識し、チャイムと同時にあいさつする習慣ができた。 ・教師が学級以外の子どもたちの名前を覚えることは子ども達の人格を認める第一歩である。また、教師が子ども達を誉める場面を意図的に設定することも必要である。 ・基本的生活習慣の確立には家庭の協力が必要である。「あいさつ」「くつをそろえ」「廊下は歩く」などねばり強く家庭への呼びかけを増やす。 		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	2.7	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養職員を中心にランチルームを活用しての食育指導。 ・出前授業を実施し、体験的に学習することができた。 ・食育だよりを発行し望ましい食習慣の啓発。 ・毎月19日の「食育の日」に給食委員会が食育放送で食に関する情報を全校生に提供する。 ・体育学習を中心に個々の児童の成長に応じた授業の工夫。 ・体育大会、水泳記録会、マラソン大会、バスケットボール大会等の行事により児童の意欲の向上を図る。 ・市教委がすすめている長縄跳び「みんなでジャンプ」への積極的参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育が体力づくりの基礎になるのだという意識を教師、保護者、子どもたちが持つことが大切である。 ・ランチルームでは食について考える機会になりよかった。もう少し回数を増やしても良い。 ・毎日の給食指導の積み重ねが食育に対する意識を改善していくと考える。 ・外で元氣よく遊ぶために声かけ等を続けていく。 ・健康な体作りは大切。縄跳び等は1～6年の体育の体作りとして毎時間5分取り組む等、系統的に継続して指導したい。 ・基礎体力が落ちている。全教員が体力向上についての共通理解をして全学年を通して体力向上に取り組めるものを考えたい。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	2.8	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内安全点検の充実、通学路の安全確認の徹底。 ・集団登校指導、校門指導、校区内巡回等教師、保護者地域ボランティアと連携して児童の安全確保に努める。 ・警察と連携して不審者対応の研修。 ・様々な事態を想定しての避難訓練を実施する。 ・災害時における家庭、学校での約束事の徹底。 ・「自分の身は自分で守る」意識の徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時に地域のボランティアの方々、保護者が見守りを良くして頂きとても感謝している。 ・不審者対応訓練は実践的で、いざという時のためになった。 ・避難訓練時で「お・は・し・も」を繰り返して指導した。児童にも浸透してきた。 ・各教室に火事と地震の避難経路を掲示する。 ・災害はいつ、どこでも突然起こることを前提として様々な災害の状況を想定し児童それぞれがにに応じて動けるよう徹底したい。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	2.9	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、校区内巡視等で教師が複数で動く機会を増やし学校がひとつのチームとして機能するよう取り組む。 ・若手教員を中心とした研修会の立ち上げ。 ・図書ボランティア、見守り隊などと連携を密にする。 ・地域の人たちがボランティア活動で作り上げた武庫川河川敷コスモス園。地域のすばらしい自然の教材の活用。 ・ホームページ、学校便り等積極的に情報発信していく。 ・創立50周年記念式典に向けて、学校と地域が連携して取り組めた。(宮の北団地工事フェンスへの掲示、記念植樹等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級内での問題、保護者対応、不登校の対応も学年や他の職員、管理職を含め複数で対応することができた。 ・学校に協力的な地域ボランティア、保護者の存在はありがたい。 ・ホームページの更新がやや少なかった。様々な情報をより早く、より多く発信できるようにしていきたい。 ・創立50周年記念式典ではたくさんの地域の方々や保護者の方々が熱心に関わってくれた。また、6年生の児童が学びを発表する場となり、感動的だった。 ・地域学校協働本部が立ち上げられた。さらに地域の協力をいただきながら子ども達にとって価値ある教育活動を展開していく。 	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.8
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標を教師、児童、保護者に明確に示し、周知徹底する。学校便りの表題に標記。 ・教育目標をもとに、学年目標、学級目標を定め児童が取り組みやすくする。 ・学級活動、児童会活動の場を活用することにより自主性を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標については様々な場面で話しをしており徐々に浸透してきた。「武庫北小の子はこんな子に育てほしい」ということを理解している保護者、児童が増えてきた。 ・子ども達からの自主的な活動がもっと増えることを望む。 		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.9
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握・分析し、実情に応じた指導を展開する。 ・定期的に各学年が研究の交流を実施し、研究を深めている。 ・全職員が研究テーマ(読む力をつける)を理解し研究内容、研究方法、研究計画等を共有できるよう取り組む。 ・校内研究授業では文学作品での研究をすすめた。 ・校内研究充実のために同一の講師を派遣して一貫した指導体制を構築する。 ・「国語アンケートの実施」「ノート指導」等6年間の継続的な指導体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に対する教師の姿勢が前向きになってきた。 ・研究推進委員会が形式的なものにならず、各学年、先生方の意見交流の場になり個の力がついた。 ・児童の実態は常に把握すべきなので国語アンケートの検証をしっかりと行う。 ・毎授業で「めあて」「ふりかえり」を子ども達に周知徹底する。 		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		